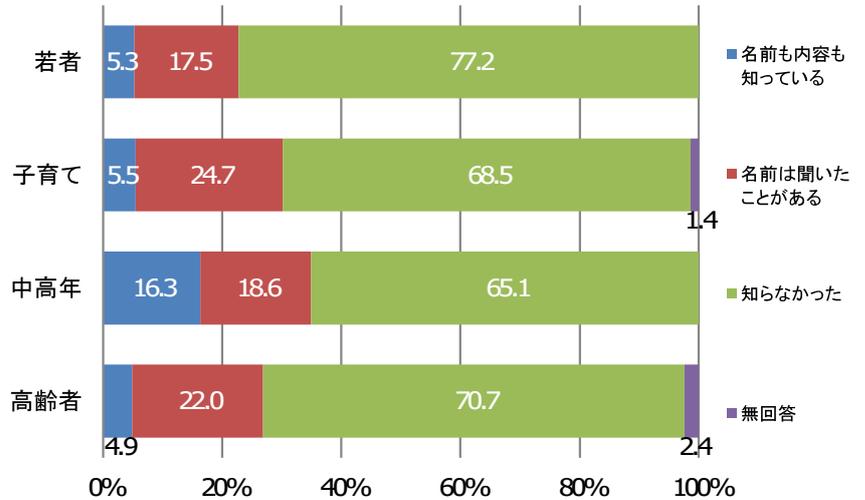
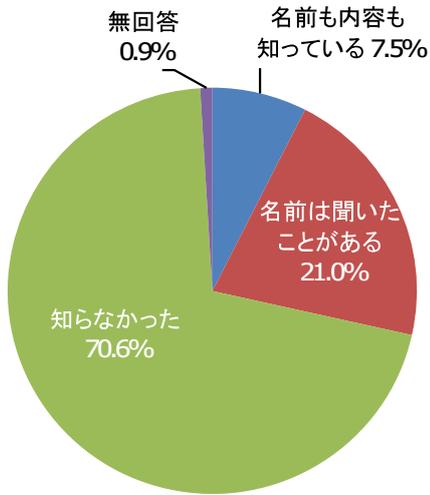


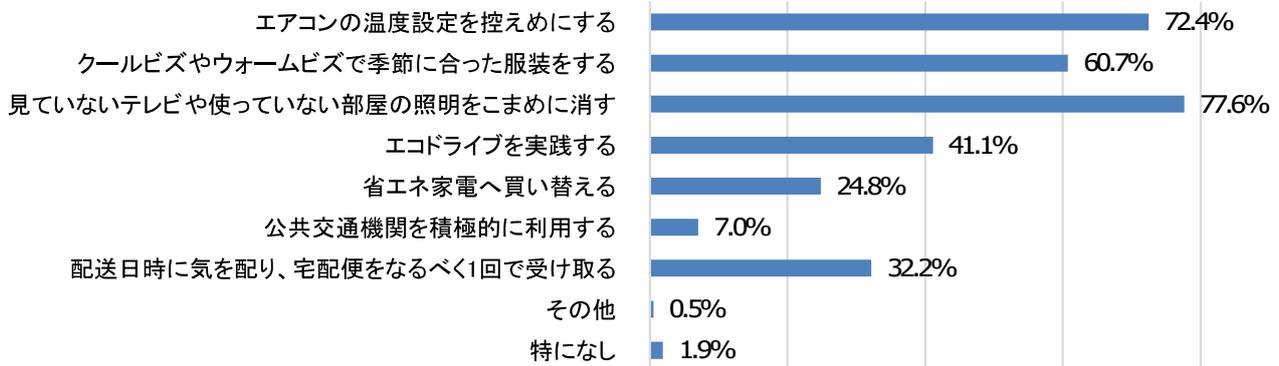
<地球温暖化対策について>

■ 問1 「クールチョイス(=賢い選択)」の認知度 (n=214)



- 「クールチョイス(=賢い選択)」の認知度は、『知っている』(「名前も内容も知っている」と「名前は聞いたことがある」の合計)が約3割となっています。
- 世代別にみると、若者の約2割、子育て・中高年・高齢者の約3割が『知っている』と回答しています。

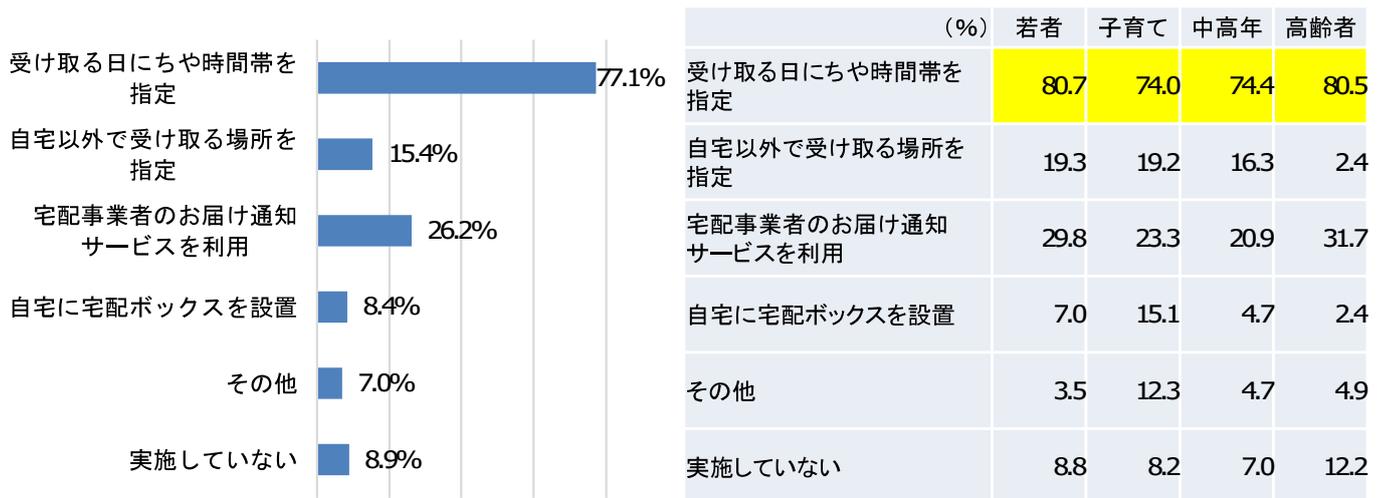
■ 問2 日ごろ実践している温暖化対策 (n=214 複数回答)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
エアコンの温度設定を控えめにする	59.6	74.0	74.4	85.4
クールビズやウォームビズで季節に合った服装をする	49.1	60.3	72.1	65.9
見ていないテレビや使っていない部屋の照明をこまめに消す	66.7	82.2	69.8	92.7
エコドライブを実践する	21.1	49.3	60.5	34.1
省エネ家電へ買い替える	12.3	23.3	34.9	34.1
公共交通機関を積極的に利用する	10.5	5.5	4.7	7.3
配送日時に気を配り、宅配便をなるべく1回で受け取る	35.1	31.5	25.6	36.6
その他	-	1.4	-	-
特になし	5.3	-	2.3	-

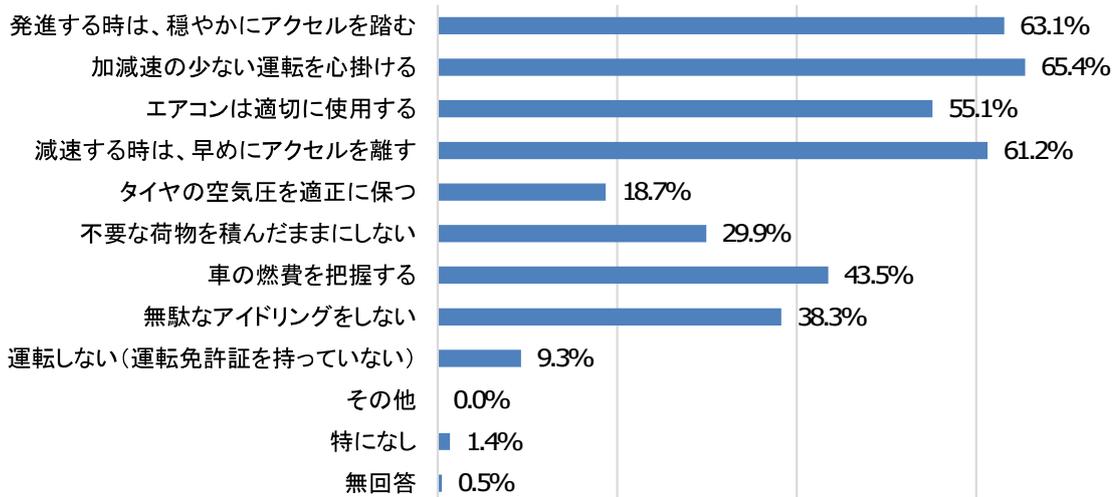
- 日ごろ実践している温暖化対策については、「見ていないテレビや使っていない部屋の照明をこまめに消す」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・高齢者では「見ていないテレビや使っていない部屋の照明をこまめに消す」が、中高年では「エアコンの温度設定を控えめにする」が最も多い回答となっています。

問3 宅配便の再配達防止のために実施していること (n=214 複数回答)



- 宅配便の再配達防止のために実施していることについては、「受け取る日にちや時間帯を指定」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「受け取る日にちや時間帯を指定」が最も多い回答となっています。

問4 車の運転に関して気を付けていること (n=214 複数回答)

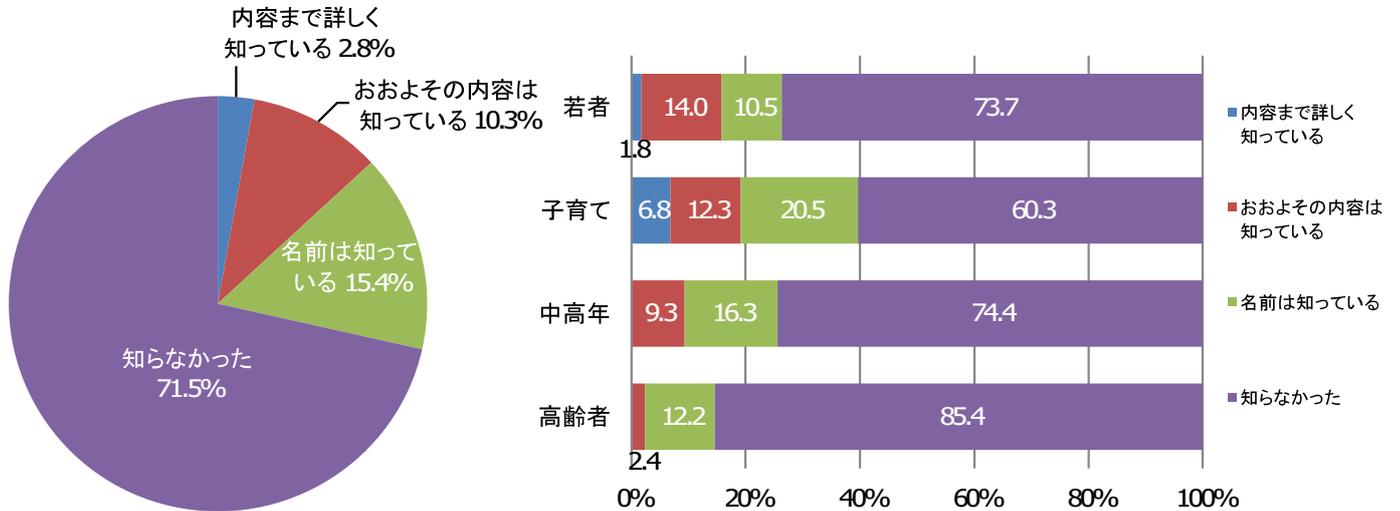


(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
発進する時は、穏やかにアクセルを踏む	52.6	65.8	60.5	75.6
加減速の少ない運転を心掛ける	52.6	65.8	65.1	82.9
エアコンは適切に使用する	42.1	58.9	53.5	68.3
減速する時は、早めにアクセルを離す	45.6	61.6	69.8	73.2
タイヤの空気圧を適正に保つ	8.8	12.3	27.9	34.1
不要な荷物を積んだままにしない	21.1	27.4	34.9	41.5
車の燃費を把握する	40.4	30.1	53.5	61.0
無駄なアイドリングをしない	21.1	34.2	46.5	61.0
運転しない(運転免許証を持っていない)	15.8	4.1	9.3	9.8
その他	-	-	-	-
特になし	-	2.7	2.3	-
無回答	1.8	-	-	-

- 車の運転に関して気を付けていることについては、「加減速の少ない運転を心掛ける」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・高齢者では「加減速の少ない運転を心掛ける」が、中高年では「減速する時は、早めにアクセルを離す」が最も多い回答となっています(若者・子育てでは「発進する時は、穏やかにアクセルを踏む」も同率)。

■問5 ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)※の認知度 (n=214)

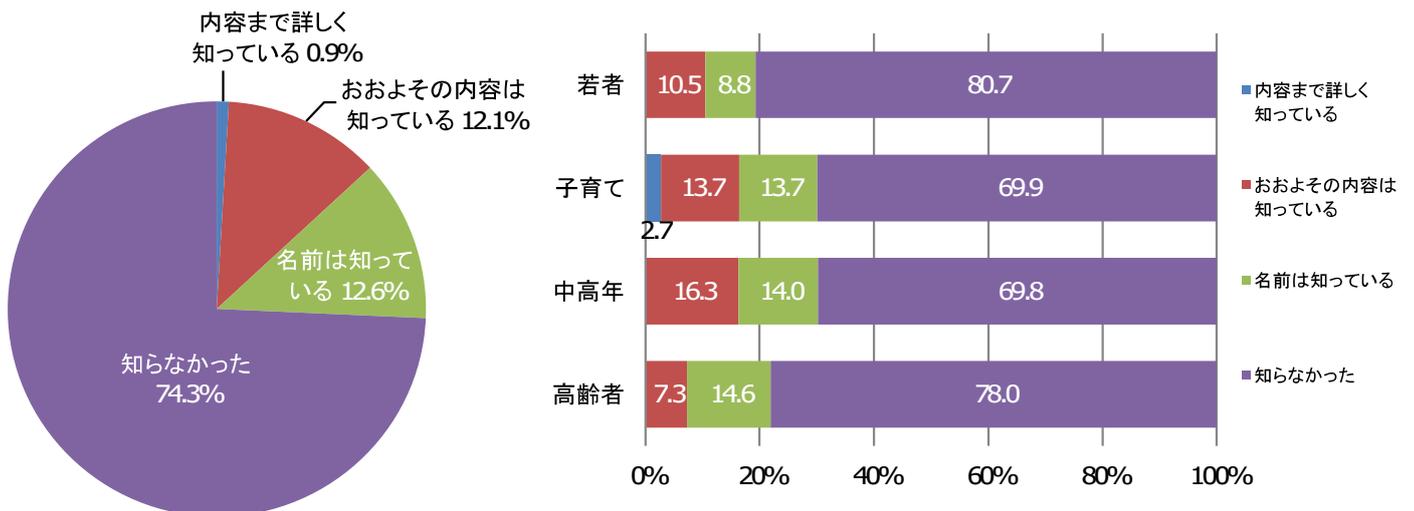
※ ZEH: 外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、太陽光発電などの再生可能エネルギー等を導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにする目的で建てられた住宅



- ZEHの認知度については、『知っている』(「内容まで詳しく知っている」、「おおよその内容は知っている」と「名前は知っている」の合計)が約3割となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年の約3割、子育ての約4割、高齢者の約1割が『知っている』と回答しています。

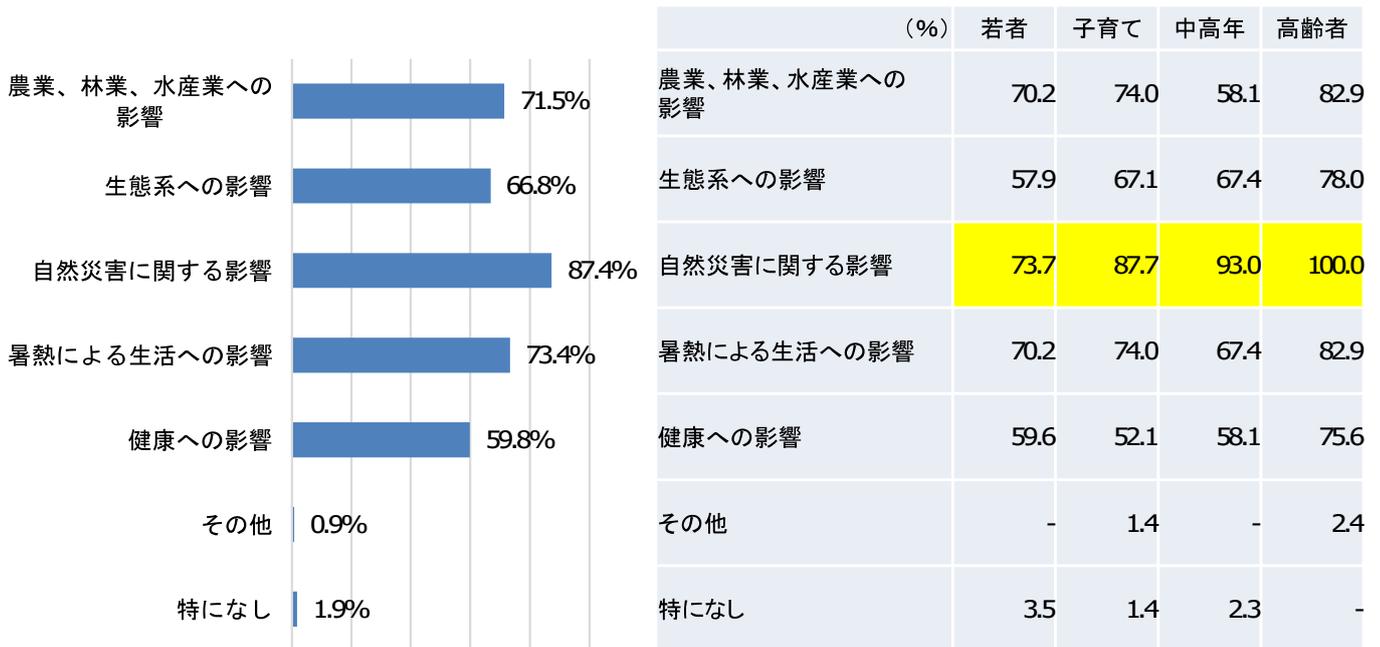
■問6 「適応策※」の認知度 (n=214)

※ 適応策: 既に生じている、あるいは将来予測される気候変動(地球温暖化)の影響による被害を回避、軽減する対策



- 「適応策」の認知度については、『知っている』(「内容まで詳しく知っている」、「おおよその内容は知っている」と「名前は知っている」の合計)が約3割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約2割、子育て・中高年の約3割が『知っている』と回答しています。

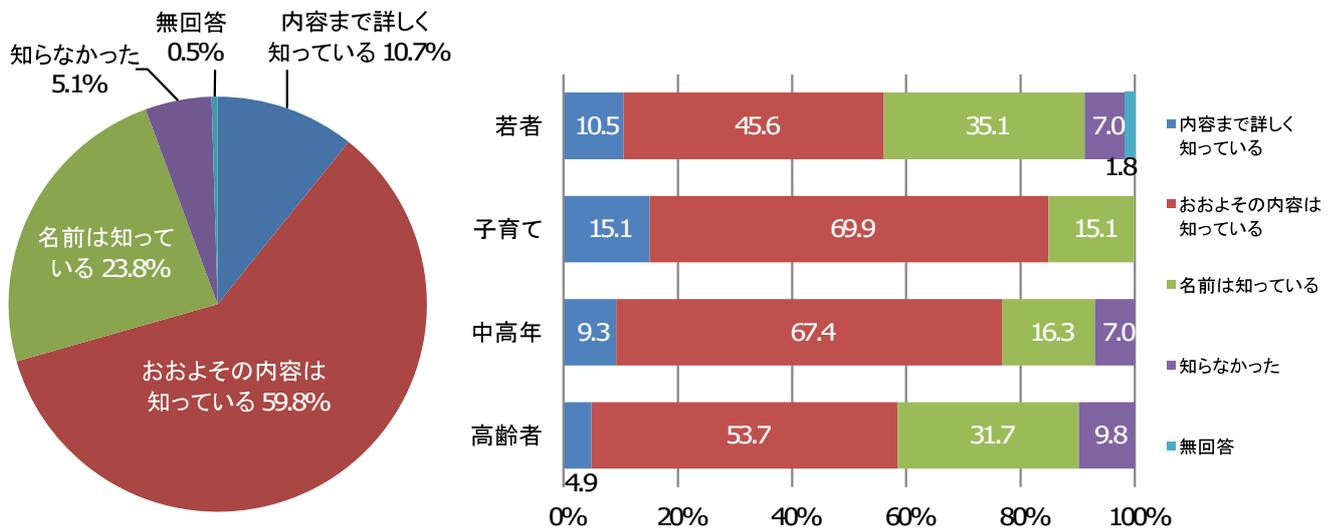
問7 地球温暖化による影響で心配なこと (n=214 複数回答)



- 地球温暖化による影響で心配なことについては、「自然災害に関する影響」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「自然災害に関する影響」が最も多い回答となっています。

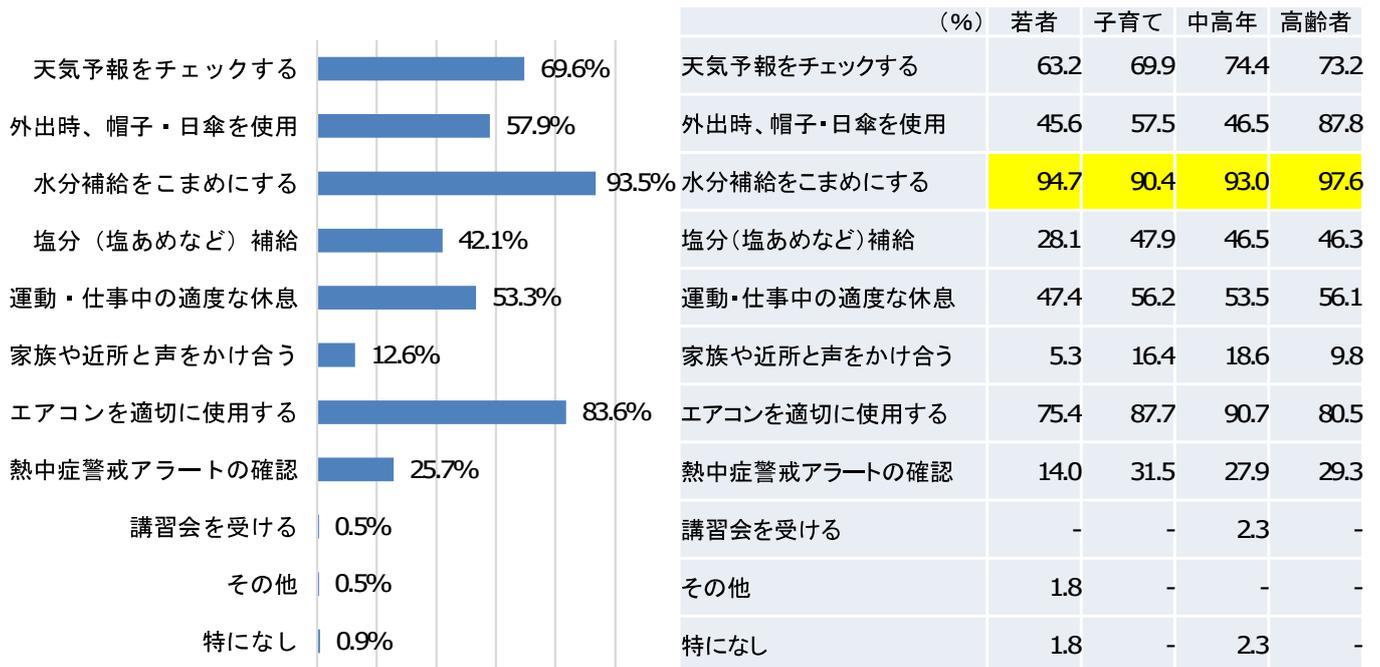
問8 熱中症警戒アラート※の認知度 (n=214)

※ 熱中症警戒アラート: 暑さ指数(WBGT)を用いて、熱中症への警戒を呼び掛けるお知らせ。



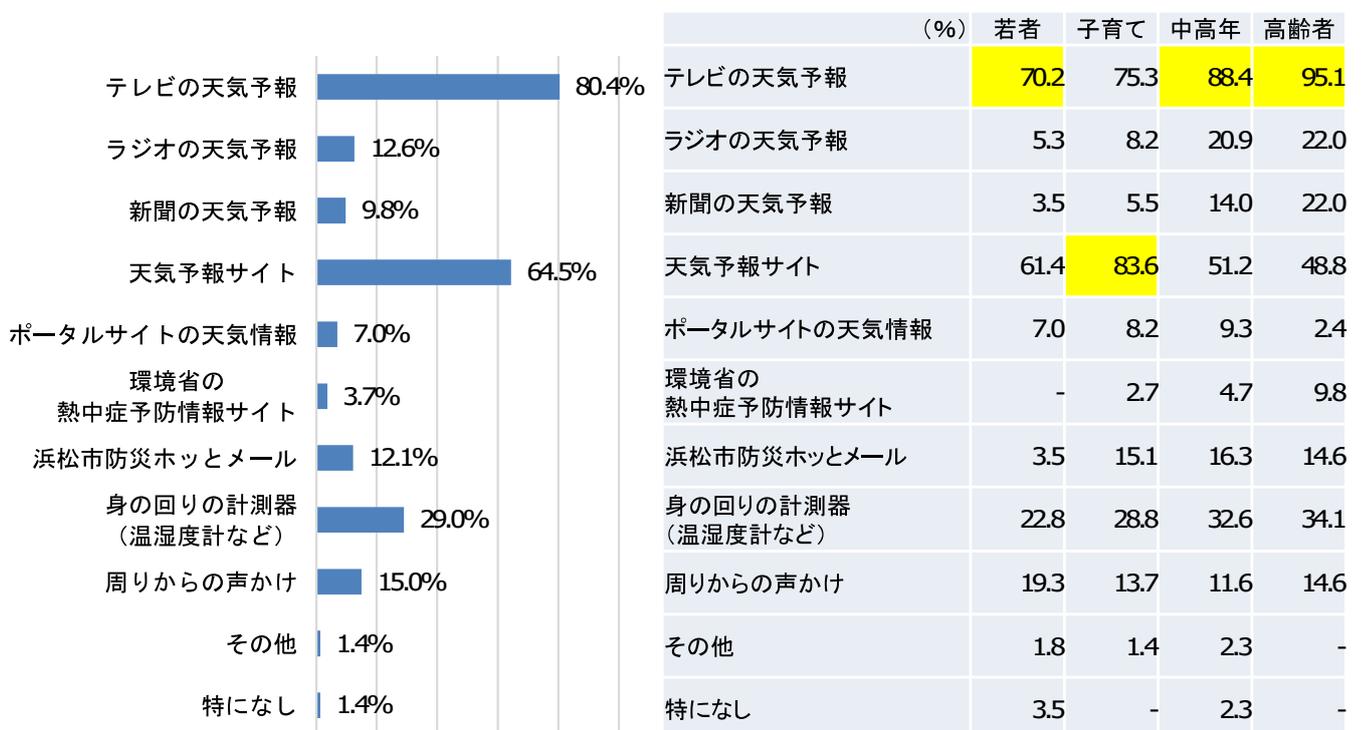
- 熱中症警戒アラートの認知度については、『知っている』(「内容まで詳しく知っている」、「おおよその内容は知っている」と「名前は知っている」の合計)が約9割となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年・高齢者の約9割、子育ての10割が『知っている』と回答しています。

問9 熱中症予防として実施していること (n=214 複数回答)



- 熱中症予防として実施していることについては、「水分補給をこまめにする」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「水分補給をこまめにする」が最も多い回答となっています。

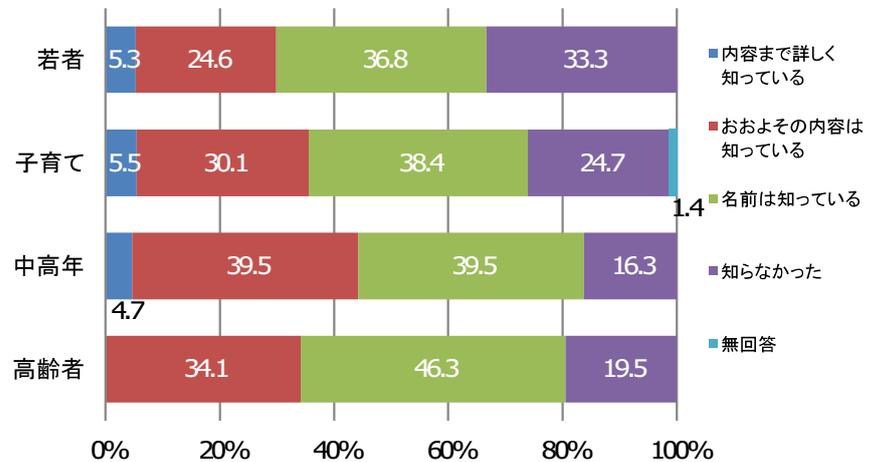
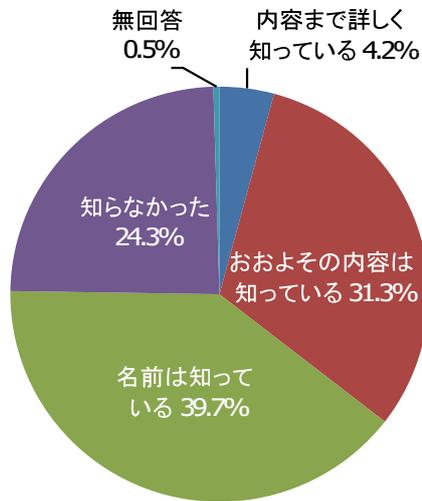
問10 熱中症の危険度を判断するための情報 (n=214 複数回答)



- 熱中症の危険度を判断するための情報については、「テレビの天気予報」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年・高齢者では「テレビの天気予報」が、子育てでは「天気予報サイト」が最も多い回答となっています。

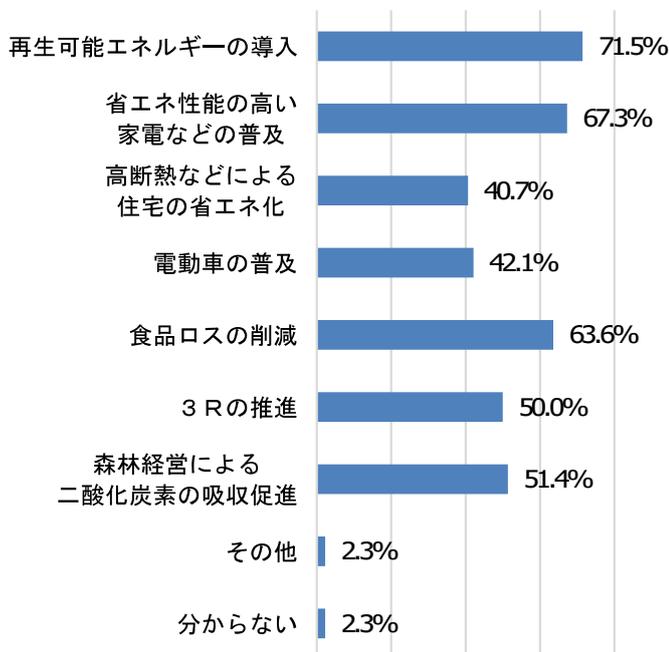
問11 「2050年カーボンニュートラル※」宣言の認知度 (n=214)

※ カーボンニュートラルとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの人為的な「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。2020年10月、政府は2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言した。



- 「2050年カーボンニュートラル」宣言の認知度については、『知っている』（「内容まで詳しく知っている」、「おおよその内容は知っている」と「名前は知っている」の合計）が約8割となっています。
- 世代別にみると、若者・子育ての約7割、中高年・高齢者の約8割が『知っている』と回答しています。

問12 地球温暖化防止のために必要だと思うこと (n=214 複数回答)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
再生可能エネルギーの導入	68.4	63.0	74.4	87.8
省エネ性能の高い家電などの普及	57.9	68.5	67.4	78.0
高断熱などによる住宅の省エネ化	35.1	42.5	37.2	48.8
電動車の普及	38.6	37.0	44.2	53.7
食品ロスの削減	59.6	63.0	65.1	68.3
3Rの推進	38.6	52.1	53.5	58.5
森林経営による二酸化炭素の吸収促進	40.4	54.8	51.2	61.0
その他	3.5	1.4	4.7	-
分からない	3.5	2.7	2.3	-

- 地球温暖化防止のために必要だと思う政策については、「再生可能エネルギーの導入」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年・高齢者では「再生可能エネルギーの導入」が、子育てでは「省エネ性能の高い家電などの普及」が最も多い回答となっています。